

【機密性 2（関係者限り）】

第 17 回 高大連携協議会（機械系）議事録（案）	
日時：令和 3 年 12 月 10 日（金）15:30～17:00	会場：宮崎大学工学部 A 棟 A203 大会議室
出席者（敬称略・順不同）： <工業高校> 古川 敦弘（延岡工業），上田 雅史（日向工業），川野 和彦（佐土原） 中城 清治（宮崎工業），陰山 淳一（都城工業），高妻 智仁（小林秀峰） 黒木 慎二（日南振徳） <宮崎大学> 申 炳録，鄧 鋼，長瀬 慶紀，河村 隆介，大西 修 盆子原 康博，山子 剛，友松 重樹，古池 仁暢	
進行：川野 和彦（佐土原）	記録：申 炳録（宮崎大学）
協議内容	担当
<p>議事に先立ち，出会者の自己紹介を行い，配布資料を確認した。</p> <p>（1）高校側状況報告 令和 3 年度の高校 3 年生の令和 3 年 12 月時点における進路決定状況について，各高校から以下のとおり報告があった。</p> <p>延岡工業高校：工業系 5 学科の就職決定者は，県内 91 名（6 割），県外 68 名（4 割）で，県内が増えた，県内では延岡市内への割合が多い。進学合格者は 57 名。</p> <p>日向工業高校：機械科の就職決定者は 24 名（県内 22 名），進学合格者は 4 名で在籍全員決定。全学科についてもほぼ進路が決まっている。ここ 8 年間宮崎大学への進学希望者がいなかったが 1 年生のうち進学希望者がでたので大事に育てたい。</p> <p>佐土原高校：電子機械科の就職決定者は 48 名，進学合格者は 27 名。県内・県外の就職割合はほぼ同等。県外には愛知県の自動車業界を中心に生産職への就職。学園生制度を使った就職もいる。国公立大への進学率が若干減。</p> <p>宮崎工業高校：機械科，生産システム科の就職決定者はそれぞれ 31 名，22 名，進学合格者は 7 名，11 名。県内の就職割合が多く，生産システム科は進学が 4 割と増（うち宮崎大学への進学者 2 名）。</p> <p>都城工業高校：機械科，情報制御システム科の就職決定者はそれぞれ 31 名，23 名，進学合格者は 6 名，17 名。機械科は県外の就職割合が多い。</p> <p>小林秀峰高校：機械科の就職決定者は 22 名，進学合格者は 9 名。県内・県外の就職者数は 12：10 で，初めて県内の就職者数が県外を上回った。</p> <p>日南振徳高校：機械科の就職決定者は 27 名，進学合格者は 8 名。県内・県外の就職者数は 15：12 と県内が多い。</p> <p>その他，各高校から学校の特徴，課題研究の実施状況について紹介があった。</p>	<p>全員</p> <p>川野， 各校教諭</p>

【機密性 2（関係者限り）】

<p>(2) 大学側状況報告</p> <p>令和3年4月の工学部組織改編により、機械設計システム工学科は機械知能工学プログラムに改組される。入学生62名（うち総合選抜8名）、工学研究科工学専攻機械・情報系コース機械設計システム工学分野入学生17名。8月に大学のオープンキャンパス、11月にテクノフェスタ体験入学をWeb形式により実施。令和2年度の学部卒業生中、就職者は32名、進学者は21名、修士修了生は26名。令和3年度就職・進学担当から、今回卒業修了予定生の就職進学については夏休み前までに90%以上が決まったと報告された。就職先は機械技術職がほとんどで、就職ナビや学科の就活情報資料等を利用し自分が調べ決めるパターンが多い（関連資料：資料3～資料5）。</p>	川野,申, 鄧
<p>(3) 今後の入学希望者に対して高校生活で身に付けてほしい要望事項および大学入学前教育について</p> <p>これらについて意見交換が行われ、身に付けてほしいことや何を学べば良いか等については、募集要項やアドミッションポリシーの「求める人材像」、「入学までに身に付けてほしいこと」の項目に載っている内容が紹介された。また、工業系の学生に足りない傾向の数学と物理については、高校のうちに基礎学力を身に付けてほしいとの要望や、数学は特に微分積分（部分積分）ができるくらい、機械工学の力学系科目を理解する上で必要であると興味を持たせ教育させればとのコメント、大学が準備した入学前教育（資料6,7）や該当授業に充実すれば数物の問題はだいぶ解消されるなどとの意見が交わされた。その他、アドミッション委員から工業系の高校から入学した学生らの修学状況（過去5年間）について詳細な報告があった。</p>	申, 各校教諭, 各教員
<p>(4) 今後の高大連携について</p> <p>まず、令和4年度の大学でのインターンシップについて、入学にもつながるので、来年度4-5月あたりの新型コロナウイルスの状況をみて警報レベル2以下であれば基本的に実施する方向で考えることにした。</p> <p>次に、高校でのインターンシップについて意見を交わし、大学でのインターンシップと同様、コロナの警報レベル2以下であれば基本的に実施する方向で考えることにした。</p> <p>その他、高校側の協議会参加者以外に2年生の担任等が大学施設の見学や大学でやっていることを知る機会があると、現場の声が大学側に届きやすく、学生らに大学を推薦しやすくなるので、そのような場を設けてはとの提案についても意見が交わされ、今後継続して検討することにした。</p>	申, 各校教諭, 各教員
<p>(5) その他</p> <p>工学部同窓会では、宮崎で働きたい在学生や宮崎に転職したい卒業生を対象に、</p>	友松

【機密性 2（関係者限り）】

卒業生・修了生 OB, OG が活躍している企業（100 社程度）の情報誌「みやざき就勝ガイド」を発行して情報提供を行っていることが紹介された。県内就職が毎年増加していること、大学側からももっと増やしたいとのこともあって就職活動への支援を頑張っていきたいとの発言があった。

以上

<敬称略>



第 17 回高大連携協議会（機械系）の様子（2021 年 12 月 10 日 宮崎大学工学部）

協議会の趣旨（2006.10.26 第 1 回高大連携協議会（機械系）にて趣旨説明あり）

- 高校と大学の専門分野（機械系）のカリキュラムについて、相互理解を深める。
- 教育プログラム全体にわたり連携して、教育目標の実現に資する。
- これらを通して、中等・高等教育に対する地域社会の期待に応える。